



## 町内10の産直が大にぎわい 紫波フルーツの里まつり

～紫波ふる里センター(佐比内)ではかかしまつりを開催～

紫波フルーツの里まつりは9月22日、町内全10カ所の産直で開催されました。各会場でクイズ大会や果物詰め放題などさまざまなイベントを実施。町内外から多くの来場者が訪れ、新鮮な農産物を買って求めていました。

また、紫波ふる里センターでは今年で12回目を迎えるかかしまつりが9月10日から10月10日まで開かれました。フルーツの里まつりの同日には人気投票が行われ、来場者はお気に入りのかかしに一票を投じていました。松坂一郎組合長は「かかしは組合員の皆さんの手作りです。今年の出来事を表すものが多いため、1年を振り返りながら楽しんでいただけたと思います」と自信を見せていました。



午後2時から全会場一斉に行われた餅まき。全会場合わせて約3万4000個の餅が振る舞われました(写真は産直センターあかさわ)



お気に入りのかかしを見つけてにっこり



今年は過去最多となる102体のかかしが並びました

## 自転車競技の今と昔を知る まちかどカフェ

紫波自転車競技場で9月13日、まちかどカフェが開かれました。「紫波町自転車今昔物語第2弾」と題して、過去の国体とインターハイで事務局を務めた細川一三さんと作山孝洋さん、自転車競技選手として活躍した佐々木正人さんが裏話や体験談を披露。細川さんが「昭和45年の岩手国体では、宿泊先の食事やケガをした選手の搬送に苦労した」と話すと、参加者からは驚きの声が聞かれました。参加した赤石地区の菅原玲子さんは「過去の大会は、選手や事務局の人などの思いや努力によってつくられていたことが分かりました」と感想を話しました。

参加者からの質問に笑顔で答える佐々木正人さん(左)と細川一三さん(右)



沿道の声援を受けながら笑顔で走るランナーたち(写真は桜町を通過する様子)

## 安心して暮らせる地域目指して タスキつなぐ

認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを目指し、日本を縦断する「RUN伴」が9月4日、町を通過しました。町の特別養護老人ホーム職員がおそろいのオレンジのTシャツを着て、古館地区から花巻市石鳥谷町までタスキをつなぎました。7月に北海道北見市から始まったこのイベントは、11月に沖縄県那覇市へ到着することを目指し、多くの人たちの思いをつなぎながら完走を目指しています。

## プロ野球OBによる夢の野球教室



元プロ野球選手からの熱血指導!



投手として活躍した安田猛氏から指導を受けるバッテリー

町野球協会（深澤剛会長）は9月17日、つばめスポーツ振興協会紫波野球教室を紫波運動公園野球場で開催しました。町内外のスポーツ少年団9団体から約130人が参加。バッテリー、内野手、外野手などのグループに分かれ、プロ野球チームヤクルトスワローズの元選手7人から指導を受けました。内野手を指導した井上洋一氏は「自分の捕りやすい位置で捕ることと余計な動きをしないことを意識して」とアドバイス。花巻市から参加した佐藤要君は「教えてもらったことを意識しながら、優勝目指して頑張りたいです」と気持ちを新たにしていました。

100歳  
おめでとう

現在、町内の100歳以上のご長寿は鳥畑さんと西條さんを含めて14人で、全員女性です。

元気に熊谷町長を出迎え、お茶を振る舞った鳥畑さん。町長は「100歳とは思えないほどお元気ですね」とお祝いの言葉をかけました。鳥畑さんは「花を眺めること、週に1回通うデイサービスで皆さんとお話することが楽しみです」と笑顔で話していました。

### 鳥畑トクさん(日詰)9/3



熊谷町長(左)から花束を受け取る鳥畑さん(右)



花束を手に喜びの表情を見せる西條さん

### 西條ヤシエさん(日詰)9/4

入所している施設で、皆さんに見守られながら100歳のお祝いを受け取った西條さん。陸前高田市出身で、震災後に紫波町にいらっしゃいました。「たくさんの皆さんにお祝いいただき、感無量です」と長男の嘉吉さん。西條さんは元気な笑顔で手を振り、町長を見送っていました。



著書を手にする鳥田さん(左)とアシスタントを務めたマーケティングチーム部長の高橋司さん(右)

### 夜のとしょかん第8夜 「つなぐビール ～サイドストーリー～」

日中に図書館を利用できない人にも図書館に訪れてもらおうと一昨年から行われている「夜のとしょかん」は9月10日、第8夜を迎えました。この日のゲストスピーカーはベアレン醸造所専務取締役の鳥田洋一さん。参加した約40人を前に「TPOに合わせて、ビールの種類も選択できるようにしたい」との思いで起業したことや著書「つなぐビール」の執筆秘話などを披露しました。最後は「地域の人々が毎日でも飲める地ビールを目指し、ビールと生活が織り成す文化を岩手から発信していきたい」と抱負を語っていました。